

## 見えてきた江戸前アユの内湾生活

平成15年1月、都水試はアユ仔魚を内湾で初めて大量に確認しました。

平成16年1月に再び、羽田空港南岸の汀線でアユ仔魚を採集し、これらは11月に多摩川から下ってきたアユ仔魚と成長曲線で一致しました。都内湾におけるアユ仔魚の分布は、空港北側やお台場などの海浜浅水域でも確認されました。

実施機関

資源管理部

事業名

内湾漁業資源環境調査

### 背景・ねらい

多摩川では、天然アユ稚魚(江戸前アユと呼ばれています)が東京湾から、毎年、コンスタントに遡上することが分かっています。遡上後、成長したアユが秋には中流域で産卵し(図1)、ふ化仔魚が東京湾へ下ることはこれまでの調査で確認できていましたが、その後の生活が謎でした。

多摩川に天然アユを増やすため、江戸前アユの内湾生活を探ります。

### 成果の内容・特徴

初めて羽田で、アユ仔稚魚(写真1)の分布を把握しました。  
羽田空港南岸汀線で296尾、同北岸汀線で110尾、お台場海浜は114尾(図2)。

アユ仔魚成長が分かりました。  
流下仔魚は全長7～8mmで、2ヶ月後には40mmに達します(図3)。

アユ仔稚魚が好む水域が分かりました。  
空港周辺やお台場に共通する、干潟状の浅水域が、アユ仔稚魚には必要です。

### 成果の活用と反映

調査の結果は、NHK総合TVで2度にわたり紹介されました。1回目は3月17日朝のNHKニュースおはようニッポンで、2回目は「地球！ふしぎ大自然、大都会にアユ百万匹多摩川奇跡の復活！」です。視聴者から大きな反響が寄せられました。

今回、多摩川から流下したアユ仔魚が、内湾で成長していることを確認できました。今後は、多くの都民が期待する天然江戸前アユがあふれる多摩川の実現に向け、魚道整備など関係機関に働きかけていきます。

天然アユのナーサリーランド(幼稚仔保育場)として、内湾の河口部や干潟が重要であることが示されました。今後は、調査範囲を東京都内湾全域に広げ、ナーサリーランドマップを作り、利用可能な江戸前アユの資源量を探ります。

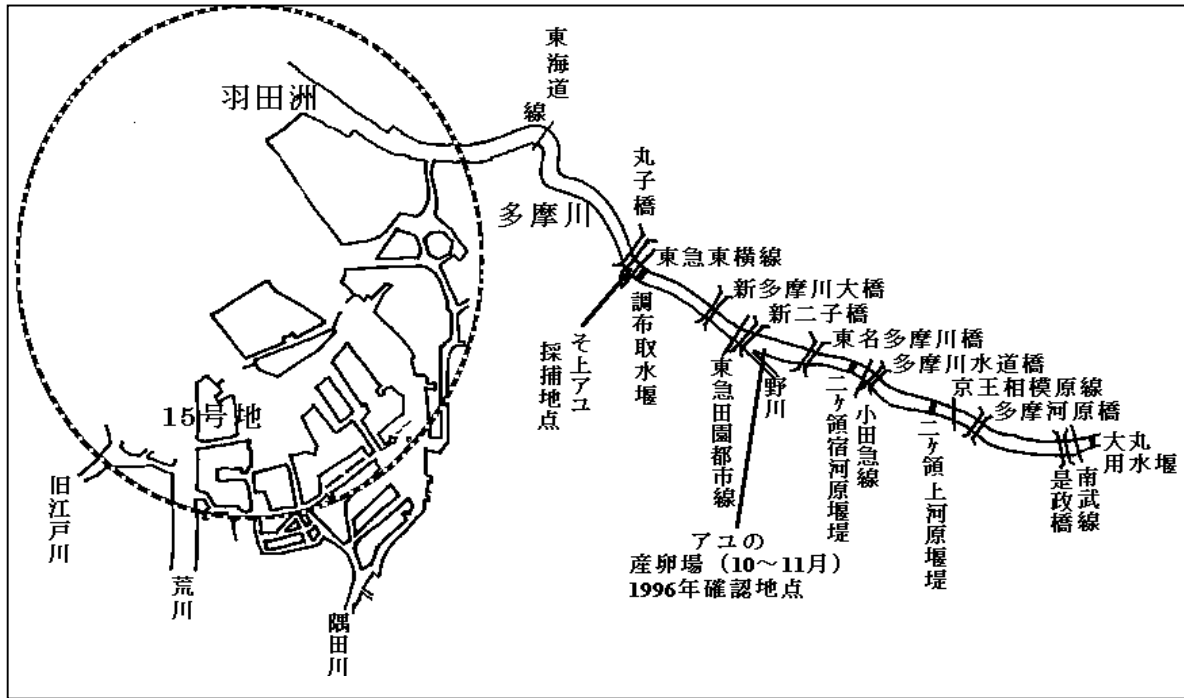


図1 アユのナーサリーランド調査水域 (円内)



写真1 多摩川流下仔魚 (2003/11/5)  
丸子橋にて採集

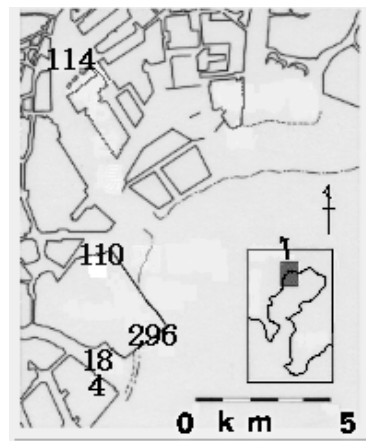


図2 アユ仔稚魚の採集状況

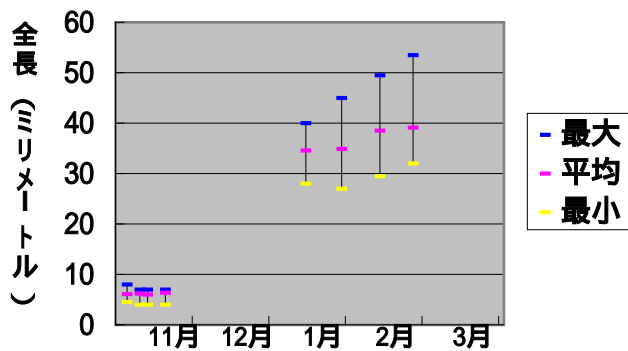


図3 流下仔魚からアユ仔稚魚までの成長

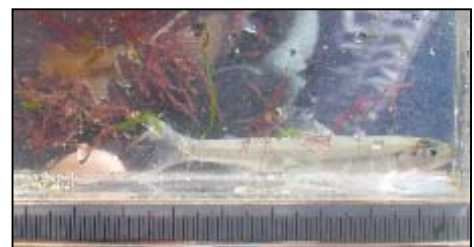


写真2 羽田洲の稚アユ (2003/2)  
全長63mm



! / 28 )